サステナビリティビジョン2050

Life with Green Technology

～「環境技術でひらく、持続可能で豊かな暮らし」を実現する企業グループへ～

第77期
報告書

株主の皆様へ

2021年6月1日▶2022年5月31日

Contents

経営の概況 …… 01
セグメント別の概況 …… 03
三協立山のサステナビリティ …… 08
三協立山グループにおける
マテリアリティ …… 08
持続可能な開発目標の取り組み …… 09
連結財務諸表 …… 13
会社概要／株式情報 …… 14

三協立山株式会社

証券コード 5932

株主の皆様へ

代表取締役社長
平能 正三

当期の経営環境と営業概況

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

当連結会計年度における世界経済は、米国や欧州においては新型コロナウイルス感染症の拡大防止策により、総じて回復基調となりましたが、ゼロコロナ政策下の中国では、経済活動鈍化の動きが見られました。また、世界的な半導体不足による生産制約の長期化懸念やエネルギーおよび資源価格の急激な高騰に加え、ロシアによるウクライナ侵攻の地政学的リスク顕在化や為替の急変動など、先行き不透明な状況が続いております。わが国の経済は、新型コロナウイルス感染者数の増加と減少に合わせて経済活動の制限と緩和が繰り返される中で、緩慢ながらも持ち直しの動きは続いておりますが、昨今の世界情勢の影響など、依然として厳しい事業環境となっております。

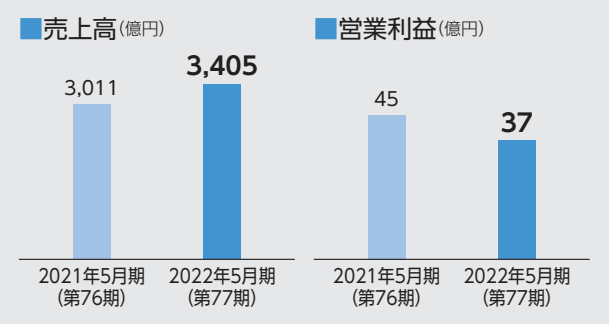
このような環境のもと、当社グループは、基本方針を『収益面での健全経営を確立し、安定的に成長する企業グループへ』とする2022年5月期から2024年5月期までの中期経営計画をスタートさせました。長期的に目指す姿として『サステナブルで豊かな暮らしに貢献』『多角化した経営』を掲げた「VISION2030」の実現に向けた重要な第1段階と位置づけ、各施策に取り組んでおります。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、アルミ地金市況に連動する売上の増加や為替影響により、売上高3,405億53百万円（前連結会計年度は3,011億84百万円）となりました。営業利益37億82百万円（前連結会計年度は営業利益45億68百万円）、経常利益41億98百万円（前連結会計年度は経常利益52億51百万円）、親会社株主に帰属する当期純利益3億95百万円（前連結会計年度は親会社株主に帰属する当期純利益16億83百万円）となりました。

当社は、グループ全体の経営基盤の強化と収益力向上によって、継続的な企業価値の向上を図り、株主の皆様のご期待に応えてまいりたいと考えております。

配当につきましては、業績状況や内部留保の充実などを勘案したうえで、安定的な配当を継続して実施することを基本方針としております。当期は中間配当として1株当たり10円を先に実施させていただきました。期末配当につきましては1株当たり5円、年間配当として1株当たり15円とさせていただきました。

＊2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、対前期増減率は記載しておりません。



今後の見通し

今後の見通しとしましては、ワクチン普及や行動制限の緩和により、コロナ禍からの正常化に向けた動きが進む一方で、資源価格上昇の影響拡大に加え、ロシアのウクライナ侵攻や中国のゼロコロナ政策の混乱などを受けて海外経済の減速が見込まれ、依然として先行き不透明な状況が続くと思われます。

国内建設市場では、2022年度の新設住宅着工戸数、非木造建築物着工床面積とも前年並みで推移するものと見込まれます。

アルミニウム押出形材の国内市場では、半導体製造装置向けの活況な設備投資の継続により、前年並みで推移するものと見込まれます。

商業施設市場では、店舗建築着工が前年並みで推移し、また、小売業での人手不足、人件費上昇を背景とした省力・省人化投資は引き続き進むものと見込まれます。

海外の自動車市場においては、電気自動車の比率が上昇し、生産台数においてドイツ、タイでは前年度より増加、中国は前年並みに推移することが見込まれます。

このような状況を踏まえ、中長期的に当社が目指す事業構造を見据え、中期経営計画およびVISION2030に掲げる諸施策を推進してまいります。中期経営計画では基本方針を『収益面での健全経営を確立し、安定的に成長する企業グループへ』とし、1. 国際事業の改革完遂、2.「強みへのフォーカス」と「効率化の追求」により、変化する国内市場へ対応、3. 長期成長への仕込み「サステナビリティ取り組み強化」・「新たな強みの創出」・「領域拡大」により、市場構造変化に対応した事業ポートフォリオの構築を目指してまいります。

以上を踏まえて、2023年5月期の業績予想につきましては、売上高3,750億円、営業利益50億円、経常利益47億円、親会社株主に帰属する当期純利益25億円を見込んでおります。

株主の皆様方におかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

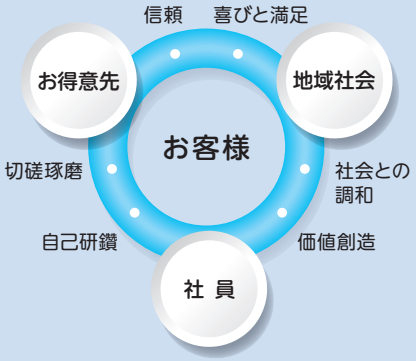
経営理念

お得意先・地域社会・社員の協業のもと、新しい価値を創造し、お客様への喜びと満足の提供を通じて、豊かな暮らしの実現に貢献します。

行動指針

私たちは

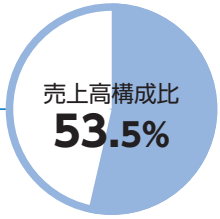
お客様満足	① 常にお客様の視点に立ち、誠実に対応することで、信頼される存在であり続けます。
価値創造	② 技術と知識の向上に努め、新たな製品の開発とサービスの提供にたゆまず挑戦し続けます。
社会との調和	③ 環境、地域社会、人との調和を考えて行動し、人と自然にやさしい企業であり続けます。
自己研鑽	④ 自己研鑽に励み、互いに切磋琢磨し、働き甲斐のある企業風土を育みます。



CSポリシー

- お客様満足を第一とし、“常にお客様の立場・視点で考え行動”しよう。
- お客様の意見に耳を傾け、“期待や問題点をしっかりと把握”しよう。
- お客様の満足実現に向け、“創意・工夫で改善、提案”しよう。
- お客様の“満足こそが仕事の成果”であると心がけよう。
- お客様の満足を、“共にわかち合えることに感謝”しよう。

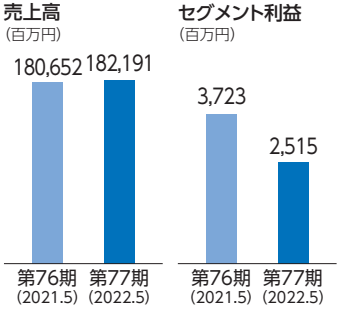
建材事業 三協アルミ



多様なニーズに最新技術でお応えするビル建材と「省エネ・バリアフリー・高耐久」を考慮した住宅建材、そして最新のデザインと高い品質を追求したエクステリア建材の提供を通じて豊かな暮らしの実現に貢献いたします。

建材事業では、2021年度の新設住宅着工戸数、非木造建築物着工床面積とも持ち直しの動きが見られたことや、好調なマンションなどのリフォーム需要を取り込んだこと、イエナカ生活、換気・非接触対応商品などの需要増加により、売上高は1,821億91百万円（前連結会計年度は1,806億52百万円）となりました。利益については、アルミ地金などの原材料価格高騰に対して、収益改善施策などを進めましたが、セグメント利益25億15百万円（前連結会計年度はセグメント利益37億23百万円）となりました。

*2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、対前期増減率は記載しておりません。



ビル建材

ビル建材事業では、今後の需要拡大が予想される開口部の高断熱化に対し、高断熱性能と高意匠性を実現したアルミ樹脂複合サッシ「Grows（グラウス）-H」を発売しました。また、市場からの要望が高い防火設備については、高性能省エネサッシシステム「ARM-S C-Series」に国土交通大臣認定防火設備（個別認定品）を取得したFIX窓透明ガラス仕様を追加投入し、商品の拡販に注力してまいりました。

他、カーテンウォール「NL-R」のバリエーション追加として、ビル用サッシ「MTG-70R高性能」「防火型MTG-70R高性能」を組み込む仕様を追加するなど、今後も快適な室内をつくる商品の提案を進めてまいります。

アルミ樹脂複合サッシ「Grows-H」

高性能省エネサッシシステム「ARM-S C-Series」大臣認定防火設備

カーテンウォール「NL-R」

■ 住宅建材 ■

住宅建材事業では、空間につながりを持たせながらも程よく独立性を確保したスペースをつくることができるインテリア建材「AMiS室内窓」や、バリアフリー構造と優れた耐久性を持った、介護・福祉施設向け商品「浴室3枚引戸」など、独自性のある商品開発を進めてまいりました。

また、世界トップクラスの断熱性能を実現した樹脂窓「スマージュⅡ」「トリプルスマージュⅡ」を市場投入し、カーボンニュートラルに向けた取り組みにも注力しています。

インテリア建材「AMiS室内窓」

「浴室3枚引戸」

樹脂窓「スマージュⅡ」「トリプルスマージュⅡ」

■ エクステリア建材 ■

エクステリア建材事業では、カーポート&マルチルーフ「U.スタイル アゼスト」に整然と並ぶ格子が美しい屋根デザインの「セレクトラインタイプ」追加をはじめ、自然災害に備えた耐風圧強度の高い形材フェンス「シャトレナⅡ」の発売など、差別化商品の強化に注力してまいりました。

また、人工木デッキ「ひとと木2」に新色とオプションを追加するなどイエナカ生活に彩りをプラスする商品の拡充に注力してまいりました。

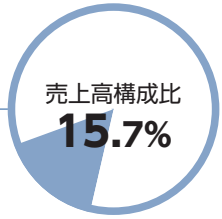
カーポート&マルチルーフ「U.スタイル アゼスト」
セレクトラインタイプ

形材フェンス「シャトレナⅡ」

人工木デッキ「ひとと木2」

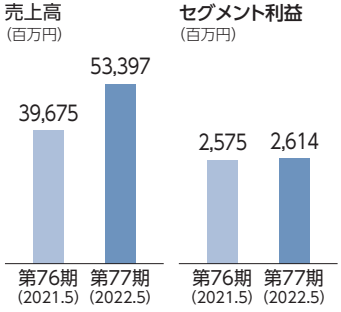
マテリアル事業 三協マテリアル

素材の無限の可能性を追求しアルミニウム・マグネシウム材の
提供を通じて、持続可能な社会の実現に貢献いたします。



マテリアル事業では、半導体製造装置向けの活況な設備投資に加え、アルミ地金市況に連動する売上の増加などにより、売上高は533億97百万円（前連結会計年度は396億75百万円）となりました。利益については、燃料価格や添加金属などの原材料価格高騰の影響がありましたが、収益改善施策などにより、セグメント利益26億14百万円（前連結会計年度はセグメント利益25億75百万円）となりました。

*2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、対前期増減率は記載しておりません。



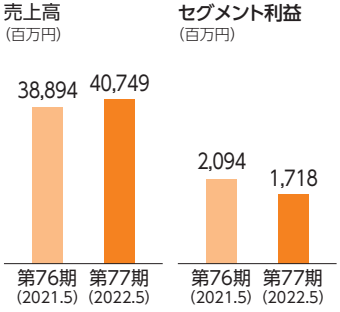
商業施設事業 タテヤマアドバンス

売上高構成比
12.0%

ショッピングセンター等の商業施設や、店舗用の陳列機器類、看板・サイン等の屋外広告物の設計・製作・施工およびメンテナンスを提供しています。

商業施設事業では、店舗建築着工が回復基調にあることや、小売業での人手不足、人件費上昇を背景とした省力・省人化投資の活発化に伴う既存店改装需要を取り込んだことなどにより、売上高は407億49百万円（前連結会計年度は388億94百万円）となりました。利益については、鋼材などの原材料価格高騰に対して、収益改善施策などを進めましたが、セグメント利益17億18百万円（前連結会計年度はセグメント利益20億94百万円）となりました。

*2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、対前期増減率は記載しておりません。

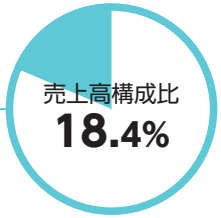


汎用什器「タテヤマゴンドラ」

規格看板をすべてLED化「T-LED サイン」

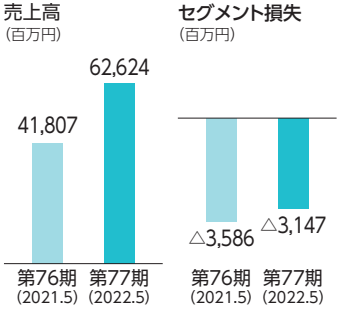
感染予防コイントレー
「抗ウイルスラクトレー」

国際事業

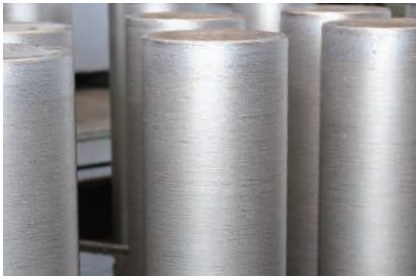


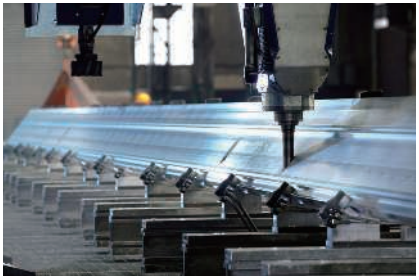
欧州・中国・タイにある海外拠点において、アルミニウムの鋳造・押出・加工を行い、高付加価値製品を提供しています。

国際事業では、アルミ地金市況に連動して売上が増加しました。また、欧州では機械分野などの販売物量が増加したことやタイでは自動車分野を中心に好調に推移したことにより、売上高は626億24百万円（前連結会計年度は418億7百万円）となりました。利益については、欧州では、半導体不足やロシアのウクライナ侵攻による燃料価格や原材料価格高騰の影響がありましたが、タイでの売上増加や販売構成の改善などにより、セグメント損失31億47百万円（前連結会計年度はセグメント損失35億86百万円）となりました。



*2022/5期より「収益認識に関する会計基準」等を適用、対前期増減率は記載しておりません。





三協立山の
サステナビリティ

Sustainability

三協立山グループにおけるマテリアリティ

- サステナビリティビジョン2050に基づき、持続可能な社会への貢献を通じて企業価値を高めていくために、当社として中長期的に取り組むべき重要課題
- 2030年を目標年と置き設定

三協立山グループのマテリアリティ

ESG	カテゴリー	マテリアリティ	主な取り組み	
G	企業統治	1. コーポレートガバナンス	• 内部統制の強化 • サステナビリティ政策の推進	• 製品安全、品質の向上
S	労働慣行	2. 働きやすい職場環境づくり	• 社員の意見を吸い上げる仕組みづくり	
		3. 健康と安全	• 健康安全な職場環境の整備	
		4. 多様性と人材育成	• 創造性に富む人材の確保・育成 • シニア人材の活躍	• 女性社員の活躍
E	環境	5. 気候変動への対応	• 温室効果ガス排出量の削減	• 製品使用時CO_2排出削減の貢献
		6. 資源の有効活用	• 循環アルミの使用を促進 • 廃棄物削減活動の継続	• 樹脂の再資源化を推進
S	公正な事業慣行	7. 公正な取引、汚職防止	• 法令・コンプライアンスの遵守	
		8. サプライチェーンマネジメント	• グリーン調達、CSR調達の推進	
S	消費者課題	9. お客様満足の追求	• お客様のCSR方針・要望に応える商品・サービスの提供 • 取引先との協業による品質向上	
		10. 製品の安全確保	• 有害化学物質の管理と削減	

持続可能な開発目標の取り組み

<TOPICS>

当社グループは、SDGsの達成と持続可能な社会の実現に向け、事業を通じて社会の課題解決に取り組んでいます。

三協立山グループのSDGs

E 環境
「環境との調和」

サステナブルで豊かな暮らしに向けた取り組み

当社は、日本政府の2050年温室効果ガス排出ゼロ化方針を受け、CO_2排出量の削減に向けた取り組みを実施します。

工場で使用する電力をCO_2排出ゼロ100%再生エネルギー化

三協アルミ社の4工場で使用する電力を、2022年6月1日からCO_2排出ゼロの再生可能エネルギー由来の電力に切り替えました。
この取り組みにより当社の2013年度CO_2排出量の1.2%にあたる、年間約3,000トンを削減できる見込みです。

対　象

三協立山株式会社 三協アルミ社4工場
（福野工場、福岡西工場、福岡西工場福岡分工場、氷見工場）

運用時期

2022年6月1日（水）

CO_2排出削減量

年間　約**3,000**トン
2013年度CO_2排出量の
約24.7万トンに対する削減率
約1.2%

「次世代新幹線試験車両の難燃性マグネシウム合金製客室床板」性能試験実施

4月4日(月)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)と新構造材料技術研究組合(ISMA)は、三協マテリアル社などと共同開発した難燃性マグネシウム合金を用いて新幹線車両用の客室床板を作製し、東日本旅客鉄道株式会社(JR東日本)の次世代新幹線試験車両「ALFA-X」に適用して性能試験を実施しました。

現在、新幹線車両の客室床板には主にアルミニウム合金が使用されていますが、試験車両1両に全長約9m、幅約3mの範囲で難燃性マグネシウム合金製の客室床板を適用し、性能試験を実施した結果、遮音性を維持しながら約23%(約50kg)の軽量化を達成しました。なお、マグネシウム合金製圧延材を鉄道車両に適用した例としては世界最大級のサイズ。

出典：NEDO, ISMA

高断熱性能と高意匠性を実現アルミ樹脂複合サッシ「Grows(グラウス)-H」発売

三協アルミ社は、高断熱性能と高意匠性を実現したビル用のアルミ樹脂複合サッシ「Grows(グラウス)-H」を発売しました。

政府が発表した2050年カーボンニュートラル実現に向け、集合住宅においてもZEH-M(ネット・ゼロ・エネルギー・マンション)の普及への取り組みが進んでおり、窓の断熱化に対するニーズが加速しています。

「Grows-H」は、耐久性に優れたアルミと断熱性・防露性に優れた樹脂を組み合わせたハイブリッド構造で、断熱性能H-6を実現。さらに、中高層ビル用サッシに求められる耐風圧性能S-6(2800Pa)、水密性能W-5(500Pa)を確保しており、省エネルギーに貢献しながら快適な空間を提供できるようになりました。

S 社会

「社会との調和」「人間尊重」

- ステークホルダーとのコミュニケーション充実
- 地域に根ざした社会貢献活動の推進
- ダイバーシティの推進
- 心身の健康度の向上

「ツインリーフの森づくり」（第20回）活動を実施

4月17日（日）、「モンラックタカオカ」（旧：とやま・ふくおか家族旅行村）にて「ツインリーフの森づくり」活動を行いました。参加者は32名で、当日はさわやかな青空が広がり、植樹したサクラが咲く中での作業となりました。

作業は、苗木にからみついたツルを切り、下草刈の際に目印となるよう苗木にピンク色のテープ付けを行いました。また、周辺にスズメバチが巣を作らないようハチ捕獲器を設置し、安全に活動ができるようにしました。

「健康経営優良法人2022」に認定

当社は、経済産業省および日本健康会議より、従業員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる法人として「健康経営優良法人2022（大規模法人部門）」に認定されました。

また、グループ会社のST物流サービスは、同制度にて「健康経営優良法人2022（中小規模法人部門（ブライト500））」に認定されました。

今後も三協立山グループは、社員が安心して健康で働ける職場環境を築くことで、経営理念である「お得意先・地域社会・社員の協業のもと、新しい価値を創造し、お客様への喜びと満足の提供を通じて、豊かな暮らしの実現に貢献」するため、さらなる健康経営への取り組みを進めてまいります。

植物工場システム「agri-cube ID」初の導入企業が決定

当社は、2019年10月より、大和ハウス工業と共同開発した植物工場システム「agri-cube ID」の導入提案活動を進めてきましたが、このたび、Misumiに初導入しました。

今後、Misumiが植物工場の事業運営（野菜の生産・販売）、大和ハウス工業が野菜の販路サポート、当社が植物工場の栽培サポートを行っていきます。

G ガバナンス
「健全な企業活動」

- 顧客満足向上活動の推進
- 顧客要望に応える商品の開発・提供
- コーポレートガバナンスの強化・リスク管理の強化
- コンプライアンスの推進
- 情報セキュリティの強化

2021年度グッドデザイン賞を受賞 ドアハンドル「ロングバーハンドル角型」／通路シェルター「ファイブフォート」

三協アルミ社が発売しているドアハンドル「ロングバーハンドル角型」と通路シェルター「ファイブフォート」の2商品が、「2021年度グッドデザイン賞（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）」を受賞しました。

ドアハンドル「ロングバーハンドル角型」

子どもから大人まで、どこを持っても操作が可能なユニバーサル性の高いロングバーハンドル

通路シェルター「ファイブフォート」

リサイクル性の高いアルミ構造で、スチール構造に匹敵する業界最大級の柱ピッチ5,000mmと屋根張り出し量1,800mmを可能にした通路シェルター

床材「Sフロア 抗ウイルス加工タイプ」発売

三協アルミ社は、2012年に発売以来、シート材でありながら無垢材のような風合いと手触り感で人気の床材「Sフロア」に、「抗ウイルス加工タイプ」を追加発売しました。
今回発売する「Sフロア 抗ウイルス加工タイプ」は表面に抗ウイルス性能を有する特殊コーティングを施した化粧シートを使用。ウイルスを減少させる効果を発揮し、安心で快適な室内空間を実現します。

業界最高水準の高強度カーポート「G1-R」発売

三協アルミ社は、高強度カーポート「G-1」を14年ぶりにリファインし、一般地域から積雪地域まで幅広く提案が可能な「G1-R」を発売しました。
「G1-R」は、業界最高水準の高強度（耐積雪量：最大約200cm相当、耐風圧強度：風速46m/s相当）を維持しながら、柱間隔最大7,800mmによる敷地対応力の向上や、屋根枠デザインの変更、屋根とフレームの色を分けるツートンカラーを新たに設定することで、さまざまな住宅にフィットし、住まいをすっきりとした印象に演出します。

生産部門従事者の安全性向上を推進、ミズノ製「足甲プロテクター」を導入

当社は、『健康経営宣言』の一環として、生産部門従事者の安全性向上を目的に、ミズノの新商品「足甲プロテクター」を生産部門に導入しました。
当社の生産部門従事者が「足甲プロテクター」を実際に装着し、使いやすさや動きやすさなどを検証する商品開発モニター協力を行い、検証の結果から、表面積の拡大と軽量性のある樹脂製素材の採用につながり、使用者の安全性の向上と足へかかる負担を軽減しました。

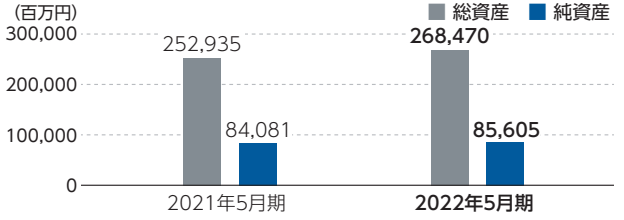
をはじめ、さまざまな企業活動を通じて、持続可能な開発目標の取り組みを進めてまいります。

連結財務諸表

■連結貸借対照表

(単位：百万円)

科　目	当　期 2022年5月31日現在	前　期 2021年5月31日現在
資産の部		
流動資産	141,698	126,884
現金及び預金	18,420	23,926
受取手形及び売掛金	—	46,132
受取手形、売掛金及び契約資産	55,105	—
電子記録債権	5,486	4,237
有価証券	1,492	1,431
商品及び製品	19,507	15,275
仕掛品	15,931	17,629
原材料及び貯蔵品	17,407	12,458
その他	9,105	6,492
貸倒引当金	△ 758	△ 700
固定資産	126,772	126,050
有形固定資産	102,115	101,514
無形固定資産	4,207	4,777
投資その他の資産	20,449	19,758
資産合計	268,470	252,935
負債の部		
流動負債	121,826	107,277
支払手形及び買掛金	49,361	40,010
電子記録債務	20,339	16,931
短期借入金	12,103	13,774
その他	40,022	36,560
固定負債	61,039	61,576
長期借入金	40,698	39,669
その他	20,340	21,906
負債合計	182,865	168,853
純資産の部		
株主資本	72,864	73,262
その他の包括利益累計額	9,699	8,037
非支配株主持分	3,040	2,781
純資産合計	85,605	84,081
負債純資産合計	268,470	252,935



■連結損益計算書

(単位：百万円)

科　目	当　期 2021年6月1日～ 2022年5月31日	前　期 2020年6月1日～ 2021年5月31日
売上高	340,553	301,184
売上原価	271,272	232,177
売上総利益	69,281	69,006
販売費及び一般管理費	65,498	64,438
営業利益	3,782	4,568
営業外収益	1,483	2,616
営業外費用	1,066	1,934
経常利益	4,198	5,251
特別利益	494	162
特別損失	1,787	797
税金等調整前当期純利益	2,905	4,616
法人税等	2,260	2,578
当期純利益	645	2,037
非支配株主に帰属する当期純利益	249	354
親会社株主に帰属する当期純利益	395	1,683

■連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科　目	当　期 2021年6月1日～ 2022年5月31日	前　期 2020年6月1日～ 2021年5月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,405	7,847
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,586	△ 9,104
財務活動によるキャッシュ・フロー	274	△ 663
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 536	354
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△ 5,443	△ 1,566
現金及び現金同等物の期首残高	22,369	23,936
現金及び現金同等物の期末残高	16,926	22,369

会社概要／株式情報（2022年5月31日現在）

■会社概要

会社名	三協立山株式会社
所在地	〒933-8610 富山県高岡市早川70番地
設立	1960年6月20日
資本金	150億円
従業員数	連結：10,375名／単体：5,034名
URL	https://www.st-grp.co.jp/

■役員（2022年8月30日現在）

代表取締役社長	社長執行役員	平能正三
代表取締役	副社長執行役員	黒崎聡
取締役	常務執行役員	池田一仁
取締役	常務執行役員	西孝博
取締役	常務執行役員	吉田経晃
取締役	常務執行役員	久保田健介
社外取締役		吉川美保
取締役	監査等委員（常勤）	本川透
取締役	監査等委員（常勤）	西岡隆郎
社外取締役	監査等委員（常勤）	長谷川弘一
社外取締役	監査等委員	釣長人
社外取締役	監査等委員	荒牧宏敏

■事業セグメント

■株式の状況

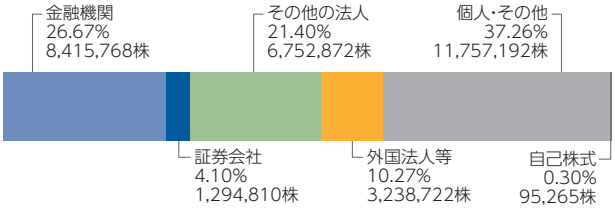
発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式の総数	31,554,629株
株主数	19,107名

■大株主（上位10名）

株主名	所有株式数	出資比率
	千株	%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	3,331	10.59
住友化学株式会社	2,235	7.11
三協立山社員持株会	1,314	4.18
三協立山持株会	1,234	3.93
ST持株会	1,162	3.69
三井住友信託銀行株式会社	971	3.09
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	916	2.91
株式会社北陸銀行	888	2.83
住友不動産株式会社	809	2.57
SMBC日興証券株式会社	672	2.14

（注）出資比率は自己株式95,265株を除いて算出しております。

■所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年6月1日から翌年5月31日
定時株主総会	8月
基準日	定時株主総会　5月31日 期末配当　5月31日 中間配当　11月30日
上場証券取引所	東京
公告方法	電子公告（https://www.st-grp.co.jp/） ※ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
＜郵便物送付先＞	〒168−0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
＜電話照会先＞	0120−782−031
＜インターネットホームページURL＞	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、左記の電話照会先にご連絡ください。

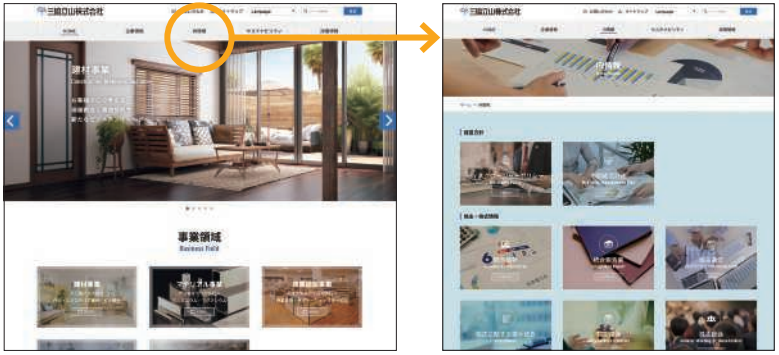
特別口座について

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、左記の三井住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、左記の電話照会先にお願いいたします。

単元未満株式の買取請求および買増請求の取扱い

単元（100株）未満の株式の買取請求および買増請求は、その単元未満株式が記録されている口座の口座管理機関までお問合せください。

ホームページのご案内



詳細な財務情報やニュースリリース等は、当社ホームページをご覧ください。

https://www.st-grp.co.jp/ 三協立山 検索

今後のIRスケジュール

- **2022年10月上旬**　2023年5月期 第1四半期決算発表
- **2023年1月中旬**　2023年5月期 第2四半期決算発表
- **2023年2月下旬**　2023年5月期 中間報告書発送

三協立山株式会社
〒933-8610 富山県高岡市早川70番地
TEL 0766-20-2101

UD FONT

FSC ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022915

VEGETABLE OIL INK

この報告書は植物油インキを使用して印刷しています。